

第1号議案 2021年度事業報告案(2021年4月～2022年3月)

1. 事業の成果

震災から11年経過した2021年も、引き続き新型コロナウイルスが蔓延し、2020年度に引き続き年度当初に予定した催しの多くを見合わせた。

2022年3月の全国の避難者は約3.7万人（昨年3月は4.1万人）、神奈川は1,933人（2021.3.30データ）であり、数こそ減ってきてはいる。

多くの避難されている方々が、地域での避難生活を余儀なくされている上に、このコロナ禍と二重の苦難にさらされていたことから、身体面、メンタル面の不調が懸念された。避難されている方々との直接お会いすることができず、ハガキや電話で体調や生活の様子を伺う活動をおこなった。

一昨年の12月に実施した第12回ふるさとコミュニティ in かながわ開催はADR相談コーナーを設けたところ、数名の方から具体的な相談があり、震災から時間が経過しても、個々の方々の問題が未解決であることや、新たな課題が生じている事がうかがえた。

復興庁の統計では、全国の避難者は約4.1万人、神奈川は1,916人（2021.3.30データ）であり、数こそ減ってきてはいる（神奈川は微減）

あまり報道されないが、全国の避難者で自死された方が240名いたという悲惨なニュースもある。コロナウイルスで直接の支援活動が難しい状況であるが、避難者の孤立をどのように見つけ、声をかけていくか、ということは10年を経過してますます重要なことになっている。

これまでは大規模災害に見舞われても、発災から数年たてば避難元の故郷へ帰還し生活再建が可能となり、避難者または被災者とは呼ばれなくなっていたが、東日本大震災の場合は、歴史上未だかつて経験のない原発事故を併発し、10年目を迎えた段階でも、多くの方々が慣れない地域での避難生活を余儀なくされているのが現状である。

私たちはこのような現実を踏まえ、東日本大震災に対する想いを風化させることなく、これからも身近に避難されている方々と共に生活再建の諸問題に取り組んでいく。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

①福島県県外避難者帰還・生活再建助成事業（福島県補助事業）

- ・内 容 第13回ふるさとコミュニティの開催、福島・神奈川避難者交流会 in 福島開催、当事者団体バスハイクの開催、会報ともにあゆむの発行
- ・日時、場所：別掲
- ・従業者人員 2人
- ・受益対象者 県内及び周辺地域在住の避難者
- ・支出額 1,462,239円

②福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業（ふくしま連復委託事業）

- ・内 容 避難者出張個別相談、安否生活状況確認、神奈川散歩カフェ、県サポ（ヨーガ）お茶っこ、テーマ別お茶っこ、神奈川県内出張地域お茶っこ

- ・日時、場所： 別掲
- ・従業者人数 5人
- ・受益対象者 県内及び周辺地域在住の避難者
- ・支 出 額 3,276,184円

③あゆむ会独自事業

- ・内 容
- ・日時、場所： 別掲
- ・従業者人員 2人
- ・受益対象者 県内及び周辺地域在住の避難者
- ・支 出 額 299,261円

(2) その他の事業

その他の事業については該当するものではありません。

事業内容の詳細については2-1.以降の事業実績を参照ください。

2-1. 2021年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援助成事業
(福島県補助事業)

(1) 第13回ふるさとコミュニティ in かながわ開催 ⇒中止

開催場所：波止場会館予定

参加者：コロナ感染予防対策を講じた上で、ヨーガお茶っこ、ものづくりコーナー、オンライン交流等を予定していたが中止とする。

⇒感染状況を見ながら実施をすべく調整し、最終的に2月19日に実施すべく会場の予約、告知も進めていたが、神奈川県に発出されたまん延防止等重点措置、及び感染状況やワクチンの接種状況を考慮すると、この時期に人が集まる催し物は控えるとの結論に達し、やむを得ず中止を決定。

(2) 福島・神奈川避難者交流会 in 福島 ⇒中止

神奈川から福島県への帰還者と神奈川の避難者との交流会を福島県内で開催し、互いの情報交換と交流を深める計画であったが開催中止とした。

⇒2021年秋の実施をめざし、双葉町の「双葉町産業交流センター」で帰還者との交流会、浜通りの復興状況の視察後、浪江町の「いこいの村なみえ」への宿泊を検討していたが、オミクロン株の広がり、ワクチン接種状況を考えると、長時間のバス移動と家族外での同室泊を伴う交流会は時期尚早と判断し中止。

(3) 当時者団体バスハイク支援

⇒2月15日に平塚訪問を予定していたが、感染状況を考慮し中止し、2022年度に再度実施を検討することになった。

(4) 会報「ともにあゆむ」の発行、行事案内およびお知らせ

年度当初の計画では隔月に発行し年間で6回発行する計画であったが、52号から56号までの5回の発行となった。

各号の発送日、掲載内容は以下のとおりである。

発送日	会報号	行事・お知らせ
6月18日(金)	52号	<ul style="list-style-type: none">・お茶っこ、散歩カフェ案内・2021年度51号で送付したひまわりの生育状況の投稿写真・横浜学習室
9月4日(土)	53号	<ul style="list-style-type: none">・10月2日開催、オンライン交流会の案内・ひまわりの成長記録写真・ご様子伺いのために送付した往復はがきの質問「コロナが終わったら何をしたい？」に対する回答
10月29日(金)	54号	<ul style="list-style-type: none">・10月2日オンライン交流会の報告・12月4日交流会の案内・過去に実施したイベントの写真
12月24日(金)	55号	<ul style="list-style-type: none">・2月19日ふるさとコミュニティの告知・2月15日バスハイクの告知・往復はがきの質問「年末年始のイチオシの過ごし方」に対する回答コメント
2月18日(金)	56号	<ul style="list-style-type: none">・鈴木顧問退任あいさつ・1月14日散歩カフェ報告

2-2. 2021年度福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

(ふくしま連携復興センター委託事業)

(1) 避難者出張個別相談

直接対面で相談対応の実施

(2) 安否・生活状況確認

来所・メール・電話・郵便はがき(3回分)による相談対応

(3) 神奈川散歩カフェ

⇒当初4回を予定していたが、屋内でのイベントが軒並み中止となったため、屋外での実施となる散歩カフェを1回追加して5回実施。参加者との会話の中で、外出の機会が減ったため足腰が弱くなったとの声も聞かれ、コロナ禍は個々人の体力・体調にも影響を与えていることがうかがいしれた。

神奈川散歩カフェの開催日程、開催場所及び参加者数は以下のとおりである。

日程	場所	参加者	備考
7月12日	赤坂離宮	9名	有志のみ
11月12日	上野東照宮	15名	
12月7日	港の見える丘公園 近辺散歩	13名	
1月14日	川崎大師	18名	
3月25日	くりはま花の国・ペ リー記念館	15名	

(4) 県サポ(ヨーガ)お茶っこ

⇒対面でのお茶っこを年間で5回予定していたが、立案できたのは2回で、うち1回はキャンセルとなった。代替案としてオンライン交流会を2回実施したが、やはり対面での実施を望む声が多く、オンラインの壁は特に年配の方には大きいことがわかったが、オンラインの参加者同士が実は避難元で知り合いだったなど、交流の場として一定の役割は果たせた。

【対面】

1) 12月4日(土)

場所：神奈川県民サポートセンター

参加者：6名

2) 2月5日(土)

オミクロン株拡大に伴う感染者数増を踏まえて中止

【オンライン】

1) 7月3日(土)

場所：波止場会館

参加者：会場7名、オンライン5名

2) 10月2日(土)

場所：波止場会館

参加者：8名 *感染状況を考慮し、参加はオンラインのみ

(5) テーマ別お茶っこ

開催日：年度内2回

将棋お茶っこ、いけばな or 水引お茶っこ

⇒2月19日「第13回ふるさとコミュニティ in かながわ」と同時に将棋お茶っこ、いけばな or 水引お茶っこ開催を予定していたが、ふるさとコミュニティの開催中止に伴い、テーマ別お茶っかも中止となった。

(6) 神奈川県内出張地域お茶っこ

⇒神奈川県民サポートセンターで開催するお茶っこ会とは別に、地域の社会福祉協議会との協力を仰ぎ、年間で3回の出張地域お茶っこの開催を計画したが、すべて開催中止とした。

2 - 3. あゆむ会独自事業 (外部関係機関との協議等)

2021年4月25日～5月11日 首都圏を対象とした緊急事態宣言発令により県民活動サポートセンター支援室の使用停止

3月25日 かながわ避難者支援会議参加 (書面会議)

神奈川県くらし安全防災局避難者支援課主催

6月26日 2021年度理事会・総会開催

2022年1月7日～3月22日 新型コロナまん延防止等重点措置公示

1月15日～3月13日 かながわ市民活動フェアー参加
(オンライン開催)